第1章

せきりにしない

新日本有限責任監査法人 工 接 祐

郎

る

影響をなくすために、アウトソーシ

こうした通常業務へのマイナスの

ングを行うことは有効である。

労務管理上の問題を軽減でき

影響がでることも懸念される。 舗準備不足などで翌日の通常業務

ない重要な業務の1つである。 内に一度は必ず実施しなければなら 財務数値の確定のために、事業年度 会社の財産の保全のために、また、 期末日に、全店休業して、従業員 ||卸資産の実地棚卸(図表1)は、

卸サービスを提供す であるが、近年、 よく見られるところ する光景は街角でも が一斉に棚卸を実施

シングするにあたっ ソーシングする事業 地棚卸業務をアウト る会社(以下、「棚卸代 業務をアウトソー 」という)に実 、実地棚 (図表1) 実地棚卸と帳簿棚卸 実際の在庫の数量を把握する。 実地棚卸 帳簿上で棚卸資産の数量を把握する作 帳簿棚卸 業である、カウントはしない。

行会社

2 1

3

会社が増えている。

この稿では、

4

棚卸資産の保管状況が改善され

⑤

る

いて考察したい。

て留意しなければならない事項につ

実地棚卸業務の

(1) アウトソーシングのメ

ては、 アウトソーシングのメリットとし 以下が挙げられる。

従業員による不正を防止する

する影響を緩和できる 従業員が担当する通常業務に対

労務管理上の問題を軽減できる 会社の業務効率化に役立つ

会社の信用力が増すことがある

りするリスクがある。 り、逆に店舗の売上原価を上げるた 的に棚卸資産の二重カウントをした めに棚卸資産をカウントしなかった 店舗の売上原価を下げるために意図 不正を行うリスクがある。たとえば 店舗の従業員が棚卸をする場合、 従業員による不正を防止する

うことは1つの方策である。 すためには、アウトソーシングを行 こうした恣意的な在庫調整をなく

対する影響を緩和できる 従業員が担当する通常業務に

がある。 倉庫での棚卸も、 務の終了後、 棚卸を実施する場合には、 店舗での棚卸、また工場や 夜間に棚卸を行うこと 一定時における棚 通常業

6

働時間が長くなる場合もある。 間で集中して行うことが多く、深夜 **督するケースでは、担当者本人の労** 員が、すべての棚卸現場へ行って監 である。特に本社棚卸責任部署の人 や労働基準法を遵守する配慮が必要 に実施される場合もあり、三六協定 留意が必要となる。棚卸作業は短時 発生し、コストに加え労務管理上の この場合、休日勤務や時間外勤務が 休業日にしか行えない場合がある。 棚卸を平日の就業時間後や休日

ことが挙げられる。 会社に棚卸をアウトソーシングする 減する1つの方法として、 こうした労務管理上のリスクを軽 棚卸代行

会社の業務効率化に役立つ

小売スーパーやコンビニエンススト を進めている会社の場合、たとえば、 従業員数を減らして店舗の効率化

拘束され、従業員の長時間勤務や店 従業員は通常業務を離れ棚卸業務に 数の従業員が棚卸に駆り出される。 卸資産の在高を把握するために相